

令和3年度大川市総合教育会議 会議録

令和3年12月24日、大川市役所大会議室において、令和3年度大川市総合教育会議を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時00分
閉会 16時23分

2. 出席者

市長 倉重 良一
教育長 内藤 妙子
委員 谷川 朋昭
委員 一ノ瀬直子
委員 蔵本美保子
委員 今村 秀一

3. 事務局等の出席者

学校教育課長 永島 潤一
学校教育課主任教育指導主事 池上 和久
生涯学習課長 井口 秀成
生涯学習課長補佐 岡 美詠子
学校教育課長補佐 原島 正敏

4. オブザーバー

なし

5. 傍聴者

4名

6. 協議事項

(1) 主体的な学びのためのふるさと教育について

7. 議事

1. 開会 2. 市長あいさつ	
市長	時間より早いですけどお揃いでありますので、始めさせていただきたいと思 います。 開会にあたりご挨拶を申し上げます。 教育委員の皆様においては、お忙しい中総合教育会議にお集まりいただき、 ありがとうございます。本会議は平成27年の法改正に伴い市長と教育委員会 が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、より一層 民意を反映した教育行政を推進するために設置されたものであるということで

ございます。今年は年末の差し迫ったクリスマスイヴになりました。よろしく
お願いします。

一昨日18歳以下の国の給付金、子育ての臨時給付金を県内最速でありまし
たが10万円をまず第一次として振り込みました。まあ、そのもの自体の良し
悪しは色々クーポンだ5万円だ10万円色々ありましたけれども、一応早く
お届けすることができたかなと思っておりますと同時に、総選挙が終わって1
2月に臨時国会で補正予算が可決成立したのが、今週の月曜日になります。振
り込んだのが一昨日の水曜日であります。中一日です。通常であれば考えられ
ない日程・スケジュールであります。何が言いたいかといいますと、本来は国
会で予算が成立した後に様々な手続きが踏まれて行って世の中に出ていくわけ
ですが、今特に去年からコロナの中です、予算が通ってないんだけど、
予算委員会で総理の発言によってその方向になるだろうということで、我々現
場はですね勝手に準備を始めて、正式なGOサインが出るのと同時に執行した
ということでもあります。

これまでの行政の、手順でいえばかなりきちんと手順を踏みながらやってき
たわけですが、今回のその子育て世帯への臨時給付金が象徴してますが、テレ
ビや報道によって知った情報をもとに行動に移していくということは、これま
でなかったかなと思っております。この2年間コロナで大変だった学校現場に
はご負担をおかけしておりますが、やっぱり少し変わってきたなというのは手
順手続きはそうなんだろうけれども、実際に現場がどうやったらうまくワーク
するのかというのを各地のですね、大川市をはじめ色々な行政の中で身につ
てきたのかなという気もしております。学校現場でも非常に大変なことが多か
ったと思いますが、どうやったら子供たちが制約のある中、楽しんだり、本来
あるべき学校が子供たち与える影響というのを如何に十分にしていくかとい
うところをそれぞれでお考えを頂いたんではないかと思えます。PTAの活動も非
常に制約がある中でやれることを、やれる中から、正に自分たちができること
を知恵を絞って子供たちに何かこう思い出を作りたいとか、そういう活動もた
くさんしておりますので、きっとこういう姿勢は子供たちに伝わってくれて
いるのではないかなと、非常に心が狭くなるような時代時期を過ごしてきました
けれども少しそういうところではですね希望をもっていけたらなという風に思
っております。我々が生きてきた時代よりも、これ去年も言いましたが、子供
たちがこれから生きていく時代は想像もしないような変化が起こることがまさ
に予想されるということでもあります。戦後75年日本では戦争は起きませんで
したし、災害はあっても何とかみんなです、東日本大震災のような大きな
災害はありましたけれども、何とかみんなで乗り越えてきたわけですが、例え
ばAIの発達ですとか、今回はこのパンデミックですとかもっともって考えて
もいなかったような次から次へと起こるかもしれないと、そんな時に子供たち
がしっかり大人になって生きていけるように今この時間を我々は使っていかな
ければならないなというそんな思いでございます。

それから少し余計なことを申し上げますが、国勢調査の令和2年度の結果が
先日出ました。まあ人口は減少しているということでもあります。日本全国の自
治体の多くが、人口減少であり、全体も減っております。と同時にこのコロナ
で非常に私が心配しているのが、確かに福岡県内では600数十名の方がコロ
ナによって命を落とされております。大変残念なことでもあります。ただ、みな

	<p>さんあまり意識が向かないのは結婚や出産というのが15%以上20%近くダウンしているということです。つまり、コロナという一つの病気によって福岡県内でいえば600数十人の方が命を失われて非常に悲しいことなんですけども、本来誕生したであろう命がこの世に出てこなかったのが、例年数字でしか比べられませんけれども、20%減っているということはですね、大変な次の世代にとってはですね、大きなインパクトになるんじゃないかなと思っております。</p> <p>あの昔、丙午のときに人がどんと出生が減っているということはあるんですが、それは60年に1回しか丙午はやってこないんですけど、このコロナは2年続けて結婚と出生が減っているというところで、今年の結婚が減ればおそらく来年の赤ちゃんの誕生も少ないままじゃないかなと思っております。これは非常にあまり良くない影響を我々の未来にもたらずのではないかなと思っております。また、そういう中も子供たちは生き抜いていって頂けなければならないということ念頭に今日は主体的な学びのためのふるさと教育についてということで、皆さんで議論を頂ければということでもありますので、よろしくお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。</p>
<p>3. 協議事項 (1) コロナ禍における個別最適化を目指した教育について</p>	
<p>市長</p>	<p>それでは、主体的な学びのためのふるさと教育について内藤教育長より導入の説明をお願いしたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>それではみなさんこんにちは、説明に入ります前にとっても嬉しい話題が入ってきました、ぜひ皆さんにご紹介したいと思いますので、少しだけお時間下さい。</p> <p>昨日の事です、大川市立宮前小学校学校地域協働活動（コミュニティスクール）広報誌？というものが私のところに来ました。この作成者はMSC子供サポーターといいまして、子供たち5年生6年生の10人ぐらいですが、サポーターとなり「初耳MSC？」という広報誌を作ってくれています。この中身をみますと、わたくしたちが今から議論したいと思っているのですが、子供たちの姿としてご紹介したいと思います。</p> <p>地域の方々が、コミュニティスクールということで、地域学校協働本部共同活動の中で、たくさんの方々が学校に入ってらっしゃる。そういう地域の大人の方々にインタビューをした。その結果分かったことや自分で考えたことということで新聞を作ってくれています。最後の方には、まとめとしてなぜこのMSC広報部に入ったのかという理由とか取材して思ったことというのが書かれています。少し紹介しますと、なぜ広報部に入ったかということ、人の役に立ちたいと思ったから、新しいことに挑戦してみたいと思ったからとか、MSCの活動を皆に広げたいと思ったから。そういった理由で入ったそうです。そして更に取材を通して思ったこと、その中に子供たちのために悩んでどのようなお楽しみ会議にするか考えていらっしゃったので、参加するときには地域の人に感謝しようと思いました。とか、挨拶をしたときのMSCの方の気持ちが知りたかったので、分かってよかったです。とか、MSCが好きになったので6年生でもまたやりたいと思いました。</p>

この子供たちの純粋な思いを感じたときに、私たちが育てていかなければならない子ども達というのはやはり、地域の方々と共に色んなことを学んで、その気持ちがつながりそしてそれを行動に起こす。そういった姿が必要ではないかと思って、まさしくまだあのコミュニティスクールとして数年しか経っていないこの活動を通して子供たちが非常に成長してくれている。そういうことが分かったのでちょっと冒頭に紹介させて頂きました。

さて、私の説明は資料を使って説明させていただきたいと思います。今日お配りしているA3の3枚目のカラー刷りをお開き下さい。昨年度から取り組んでいます、大川市教育振興プログラムの体系図でございます。今日の会議のテーマは「ふるさとを愛し人とのつながりを大切に作る創造性豊かな人」、これを目指しています。目標が4つありますが、その中の目標2「ふるさとに誇りと愛着を持ち生きがいと豊かさを実感できる人づくり」。その下に具体的な目標として⑤「新時代における自立した人づくり」と⑥「郷土愛の育成と担い手づくり」があります。具体的目標⑤の基本的方針の枠の最後の部分ですけれども、これまでの幼保小中連携事業の成果を生かしさらに連続した学びを充実させ、異校種間の連携教育を推進します。また施策の方向性のところですが、地域と一体となって子供を育む「地域とともにある学校づくり」を目指します。そして主な取り組みとして、「特色ある異校種連携教育の推進」、「学校運営協議会の充実」ということで考えています。さらに具体的目標⑥として「郷土愛の育成と担い手づくり」では、さきほど市長の挨拶にもありましたが、急激に変化する社会に対して柔軟かつ的確に対応できる力は今後ますます重要になってくる。本市の豊かな自然が受け継がれてきた歴史や文化を継承し、市民が地域に誇りと愛着を持つような機会を整えるとともに、ふるさと学習とキャリア教育とが連動した教育を推進します。そして、施策の方向性では、伝統産業である木工業や匠の技に重点を置いたふるさと学習に取り組み郷土を愛する心を育むとともに、郷土の発展に寄与する態度や豊かな創造性に富んだ人材育成のためのキャリア教育を推進します。木育の推進とか職場体験といった主な取組の流れがありまして、これが、大川市教育振興プログラムの体系図ですが、このことに今日スポットをあてて、皆さんとご議論したいと思っているところです。

さらに資料を2つほど添付しておりますが、学校教育関係では、今現在各小中学校で行われているふるさとに関する学習をピックアップして、資料を作ってもらっています。1年生から中学生までいろんな各教科、総合的な学習の時間等でこういう内容を学習していることを表している資料です。さらに次のページでは、地域学校協働活動の担当部局の生涯学習課に作って頂きましたが、おおかわ寺子屋（中学生の放課後学習）や、放課後算数教室（小学校の放課後の学習）、地域の行事・お祭り・ボランティア活動への参加ということで、今現在、こういうことをやっていますという資料を提供しております。

今日の議論の中で、私が考えているのは前回の定例教育委員会でご紹介しましたが、「自律する子の育て方」という工藤勇一氏の書物ですけれども、やはり、今から世の中に出る子供達が自律していくためにはどうしたらよいか。ということで、今日皆様方のご意見を参考にさせていただいて、来年度、令和4年度の教育施策の1方向付けをしていただく、という風に思っているところです。どうぞよろしくお願ひします。

<p>市長</p>	<p>はい、ということでございますので、テーマが広い、例えばその昨年やったように、ICTとかですね、こうぎゅっと絞ったところではなくて、少しこう広いテーマにはなるのですけれども、まず教育委員の皆様方からご意見を頂戴しながら進めていきたいと思っております。</p> <p>それでは、いつもすいませんが、谷川委員からお願いしたいと思います。</p>
<p>谷川委員</p>	<p>失礼いたします。漠然としたところで皆様の意見を伺いながら、後々意見を述べさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、取っ掛かりといたしまして、私の方からは、主に小中学校の授業の中で今、市長・教育長からお話が合ったような内容についての授業とかカリキュラムが行われていることを学校であったり、自分の息子から見たり聞いたりすることがありますので、そういうところの観点から少し意見というか自分の考えていることを述べさせて頂きたいという風に思います。</p> <p>ふるさと学習それぞれの学校でいろんな形で取り組んであると思います。継続的な学習として、大まかなところでのふるさと学習というところではなくて、この学年は継続的にこのことに絞って6年間学ぶとか、そういうのも一つの考え方としてはあるのかな。例えばそうなる時に題材を決めることが物凄く難しくなってくるかな。それを6年間学ぶとか、3年間学ぶとなってきたときに、題材を選ぶのが非常に難しくなるんですが、その教材・題材づくりを子供たちに見つけさせる。そうすることによって子供たちは自分が興味のあるものから、ピックアップしていくんじゃないかなと。それは同時に子供たちが自ら課題を見つけていくということで考えていくと、その授業をしていくうえで当然、間違った答えというのは出てこないのかなと思いますので、すべての子供たちの意見を全ての子供たちがしっかりと聞き入れて、受け入れる。そうすると当然自分も満足感を得られるだろうし、自分の意見が認められたということで、自己有用感であったりとか、あるいは自分が認めて貰ったんだから人の話も聞けるとか、人の意見を聞くとか、色々なことに繋がっていくようなふるさとの人やことといったようなものを自分たちで見つけていって、継続的にそうした授業に取り組んでいけばいいのかなと、漠然と思ってまして、あとは皆様の意見を聞きながら、少しずつそれを参考にしていきたいと思っておりますので、私の意見をいったんここで終わらせて頂きたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それぞれの意見については、一旦皆様から、ご意見を頂いたうえで話をしてみたいので、一ノ瀬委員お願いします。</p>
<p>一ノ瀬委員</p>	<p>はい、よろしく申し上げます。ここに参考として書かれているふるさと学習ですね、よくされているなと感じます。去年の大野島小学校であった、金銭教育に関しての授業というのは私にとってはとても良い授業をされているなと思っておりました。なにより子供たちの生き生きと楽しそうに授業をしている風景を見させて頂いて、地元の農業に関するテーマを金銭教育につなげるというのがとても良かったと思いました。どうしても学校側としては、子供たちに教える・指導するとなるんですけど、教科としてはそれが主になってくるのかなと、</p>

それ以外での学習ということであれば、子供自身が自ら知りたいとか学びたいとか、どう自分が成長していきたいというようなことを潜在的に持っているのではないかと思います。自分が感動したり、素敵とか凄いというような感動をもつことを自分のテーマとして調べてみようと、知ってそれを発表しようとかそういうものをしていけば、子供たちの意欲が湧いて、それを発表できるということができれば、子供たちにとってもやりがいのあることじゃないかなと、その対象として、ふるさと大川についてすごく感動したこと、人・こと何でも良いんですけどそのテーマを見つけることを自分でしていく。一人ひとり違うんですけど似たようなテーマがあれば友達間や、グループでやっても良いし、縦割りでも良いし、学校によって色々になるとは思いますが、それを調べていって、11月に発表をする。それを先生たちに上手く後押しをしてもらってファシリテーターというような立場で、やって頂ければ、子供たちの膨れ上がる気持ち、学びたい意欲を掻き立てていけるような学習になるのではないかなと思っています。その中で感動した・大川凄いと思ったところが観光地であれば、その子供達が観光大使として自分で案内をしてあげる、案内者としてボランティアになってもらうとか、そういった人の前に立っても自分の考えが言える、調べたことを発表できるチャンスがいっぱい出てくるんじゃないかなと思いますので、そういった発表の場を広げていければいいんじゃないかなと思ったところです。

市長

はい、ありがとうございます。続きまして藏本委員お願いします。

藏本委員

はい、最初ふるさとってなんだろうと話をしていて、東京の人は東京をふるさとと思わないみたいな、田舎の人のあつかいイメージかなとそういった話をしていたんですけど、大川もふるさと教育ということで、どんなことがあるのかなと思ったんです。場所とか自然とかそれがふるさとの大きな一因で、トコロジストってカタカナで書くんですけど、そういったのを聞いたことがあって、みんなの周りの家とか学校とかというのを、本当の自分の周りのところをよく見て、草だったり虫だったりに関心を持って、それを起点に学んでいって、それが地域の自然や文化を守る活動に役立っている、取り組んでいるのも面白いなと思っています。大川でいうと家具に行きがちなんだけれども、それに関わっている人の数というのは少なかったりするんで、本当に自分が取り組める家のすぐ横のとか、そういうところから始まるのも案なのかなと思いました。家の周りのゴミだったり、鳥だったり色々見ていくと、プラスチックのこととか、気象が変わっていくこととか、結局自分の周りのことが社会に結びついていく、世界に繋がっていく、そうやって大川市にも繋がってますけれども、そういった活動なのかなと思いました。そしてふるさとの繋がり、人との繋がりと言ってますけれども、それも大事と思ってまして、私の出身が鹿児島なんですけど、父が一人いるんですが、周りとか自然が好きなんですけど、もし親族がいなかったらそこをふるさとと思うかなというのと、やはり人の繋がりというか、そこが大きいと思っていて、地域の活動とか、ここがふるさとだと思うところに大きな意味を持つのではないかなと思いました。

地域活動がやはりコロナの関係もありまして、若い人が中々参加しないとか、

	<p>呼ばれてもどうしようもなく仕方なくいくとか、そういうのが実際としてあるんですけど、そこを好きになるような仕掛けというか、その知恵を出し合うのが大事なんだろうと思います。皆がどうやったら好きになるんだろうという話をするだけでも良いし、他所で聞いたところでは防災のことを入れた国民大会とか防災減災とか、駆けっただけじゃなくて、実際やってみたい・役に立ちそうだなという活動があれば好きになるとか、ハロウィンのときに子ども見守りの家をずっと回ってお菓子を貰って確認していくとか今年とかやろうかと考えたんですけど、自分の周り、本当に近くを知る、近くの人との関りを作れるといったことが大事だなと思います。先ほど一ノ瀬さんも言われましたけれども、ファシリテーターがいて、ここだけで話すじゃなくて、地域の人みんな教育について話せる場があると良いなと思います。未来繋がる人がつながる。まち大川すごくいいなと思ったんですけど、これはどこかに書いてあるんですかね。これを小さい子からお年寄りまで、一緒に取り組んでいけたらなあと思いました。以上です。</p>
市長	<p>はい、ありがとうございます。それでは、今村委員お願いします。</p>
今村委員	<p>こんにちは今村です。よろしくをお願いします。 木育とか食育とかたくさんここに書いてあることを学校の中でやっていますけど、その点を縦の線に繋がられるような発表の場、それがスピーチなのか展示物なのかは色々あると思いますけど、それを小学校と中学校のある一定の学年で、目標感を持って最終的にやれるものが良いなと思うのと、それを高校大学生のところには教育を求めて一緒に作るとか、ファシリテーターとして参加してもらおうのか、ふるさとの子供達学生と一緒にやってこの大川の良さとか自分の興味を持ったふるさとのことに対して協同で出来る場や発表の場があると良いなと思いました。以上です。</p>
市長	<p>はい。ありがとうございました。全ての委員にご意見を伺いましたが、それぞれの意見でもう少し聞いてみたいということがあればお願いします。それでは一ノ瀬委員。</p>
一ノ瀬委員	<p>ここに今日頂いています資料のふるさとについての学習の資料ですね、これに沢山色々な学習をしていることが書かれているんですけど、これを決めるときはどのようにして決めたのかなと思いました。一つに関わったりとか、孫がいるところのクラスでどんなだったと聞くと、なんとなくさせられてた感じがあったので、自分たちがどうしたいか、自分たちからやろうというようなことだったのかなという感じを受けました。そもそも家庭教育の中で、そういう発信のしかたをしているのか、親が子どもにそう伝えているのかということに関りがあるのかなと思うんですけど、学校の中で言うて良いんだよ、自分の声を発して良いんだよという空気があるのかなというところを感じています。</p>
市長	<p>はい、谷川委員も冒頭同じことを仰っていたんですけど、テーマを子供たちが見つけて、興味のあるものから見つけて言う。そのプロセスが、私たちはふるさと学習で、ということですね。</p>

<p>教育長</p>	<p>それでは教育長お願いします。</p> <p>それでは、1枚刷の両面をご覧ください。この中で教科に関係するところはカリキュラムに位置付けなければならないので、これはプログラムの中にあります。</p> <p>それとは別に、総合的な学習の時間につきましては、最初出たときは何をしようよいかわからなかったんですが、子ども達が課題を見つけていくであろう決して先生たちが計画的にしてやらせるものではないのですが、年々何年生はこれをしようという固定化していつているのは感じます。</p> <p>最初出たときは子ども達の課題意識から出発しようというところからだったんですが、そこに谷川委員や一ノ瀬委員皆さん共通して言われたんですけども、子供たちが学びたい知りたいという心の教材づくりが根本だと思いますので、ご意見を頂くのはありがたいと思います。</p> <p>学校現場に長くおられた方でその辺が説明できる方いらっしゃいますか。それでは池上主任お願いします。</p>
<p>指導主事</p>	<p>先ほど教育長が言われたんですが、教科に関しては決まった内容がありますので、ただ大事にしているのは、教科の内容にしても総合的な学習にしても子どもたちが学びたいような内容の提示をして取り組んでおります。教科の内容であればどちらかという知って終わるんですよ。総合的な学習でいくと、そこから自分たちがやりたいこと知ったことをさらにですね、調べたい・伝えたいくなるように考えています。学んで知識を得たことを実践することに繋げられるように取り組んでいるところです。</p>
<p>市長</p>	<p>はいありがとうございます。先ほど一ノ瀬委員が言われた教えることから引き出すことというのは、物凄く大事だと思います。自分も親として子どもから引き出すといのはやはり意識をすることであるんですが、あえて学校現場にいないので言うと、私が子どもにそのことを意識したとして、2つ大事なことがあると思うんです。1つは沢山選択肢を提示しない限り、広い世界を見ないと、例えば世の中にスポーツは柔道しかありませんと言われると子どもは体を動かそうと思ったら柔道するしかないですけど、サッカーも野球もテニスもあるよということとか、農業もあれば工業もあって世の中色々な仕事があるよとか、色々なことを体験させるとか、これってとっても時間がかかるなと子育てしながら思います。初期は色々なものを触れさせる体験させることが大事なんだけども、年度計画の限られた時間の中でテーマを設定するのは大変なことだと思います。</p> <p>もうひとつ大事なことは、テーマを設定するファシリテーターなり先生が、そのことに対して感動しているかを子供たちは絶対見ているとおもうんですよ。だから、親でも学校の先生でも大人が、強く興味を持っていること、その姿勢を見せなければならないことが大事だと思います。しかし、忙しい学校現場の中で果たしてその姿勢を求めていくことは大変であると思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>選択肢が色々ある中で、そこから選ぶ方が早いんですよ。何もない状態で一クラス30人程度いるとすると30通りあるかもしれません。それを限られた時</p>

	<p>間の中で、どの子どもにも満足させる内容を作るのならば 30 通りの指導方法なり任せる時間が必要になります。現実的に考えると、今の総合的な学習のやり方がベターであると考えております。しかし、子ども達が選ぶときには強制はしておりませんが、できるだけ子ども達の気持ちを大事に考えており、させられた感がないようにしております。</p>
市長	<p>教育委員の皆様からのご意見をお願いします。</p>
藏本委員	<p>自分がしたいやりたいことは、急に言われてもできるので、例えば宿題を選択性にするとか、意図的にそのような機会を増やせばいいのかなって思います。</p> <p>この間、中学生の状況をみたとき、ポイントが貯まったから今日は宿題をやらなくていいんだと言ってた子がいたんですが、どんなことをしたのか聞いてみると漢字をひたすら書いていたんですね。その子はそれが価値のあることだと思っているんですよ。そこに違和感を覚えました。先生が一人ひとり全員を見ることは難しいけど、先生が生徒達と対話することを繰り返すことによってもっと安心して自分の意見を言える環境を作っていければなおもいます。</p>
市長	<p>選択していくことに慣れさせることと、自分が思っていることを素直に言えることが大切なのかなと感じます。</p> <p>どなたかご意見ありますでしょうか。</p>
谷川委員	<p>色々な委員さんの発言と、先ほどの藏本委員の発言を聞いて思ったのが、だからこそのふるさと学習なのかなと思いました。</p> <p>最初言ったように自分の興味関心があるのはその生徒の人数分あるんでしょうが、自分達が出したテーマを考える中で間違っただけのものはないのかなと思います。人の数だけ答えがあるものなので、肯定的な学習ができると思います。</p> <p>こういったふるさと学習を行うことで、自己有用感や他人を尊重する思いが育まれて、家庭や地域との繋がりを感じることができ、物の見方が変わるのではなかろうかと感じます。学校でふるさと学習を実施していくには忙しい先生では地域に深く関わっていきにくいので、コミュニティスクールのような感じでファシリテーターの方が関わってくれば良いのかなと思いました。</p>
市長	<p>私も学校と地域をつなぐコーディネーターが重要であると感じます。ではどのようにしていったらいいのかということを実践的に落とし込む必要があるのではと思います。</p> <p>いわゆるコミュニティスクールのような運営の仕方であったり、日常的な宿題の出し方も改善していく余地があるのではと感じました。</p> <p>今村委員はどのように考えておられますか。</p> <p>今村委員が冒頭仰っていた発表の場を作ると良いのではないかという意見と、他の委員さんからの意見でありました、地域と学校を繋ぐコーディネーターみたいな方が、児童生徒が肯定感を得られるような授業に繋げると良いのではないかと。そんな意見の中で現実的に学校現場に落とししていくためにはどのような方法が適切かということについて、今村委員はいかがでしょう。</p>

今村委員	<p>すこしテーマから外れるかもしれませんが、溝江勘二顕彰のようなイメージなんですよね。溝江勘二顕彰では絵を描くんですけど、どんなテーマでも良いんですよね。例えば土を書いても良いし、お寺を書いても良いし。</p> <p>自分で題材を選択しても良いし、チームで題材を選択しても良いし、月に1回集まって時間を作って題材を研究して発表に向けて努力すると仲間意識が醸成されたり思い出作りになるのではないかと思います。</p>
市長	<p>発表する場を増やすのは凄く良いなと思います。でも実際に発表の機会を作るのは難しいのでしょうか。</p>
教育長	<p>やはりアウトプットは重要なんですよ。学んだことを表現して分かち合うことは。先ほど一ノ瀬委員も仰っていたんですが、私も実際学校現場のことを思い出しながら時間的な制約があると先ほど答えてたんですが、でもそれは私達の固定観念であって、もっと時間的幅を広げて例えば4月から10月の期間で長い期間をかけて調べて11月に発表するというような。細切れでカリキュラムを作ってしまうので、それを取り払って子ども達が興味あることを長いスパンをかけて作るのも良いかなと思いました。</p> <p>皆さんの話を聞いていて思い出したのが、私が最後現場にいた小学校が柳川市の中島小学校での思い出で、子ども達の意識の中に地場産業の海苔を全国に発信したいと強い思いを持っていたんですね。そこを担任と考えると、色々な意見があるなかで、学校の前の小さなパン屋さんをお願いして、海苔を使ったパンを作ったんです。子ども達にデザインや名前も考えてもらって、ムツゴロウがいるからむっちゃんパンという名前でもムツゴロウに合わせて作りました。これ海苔が入っておいしいんですよ。</p> <p>また、地域の古民家がオープンする時期に合わせてそこでむっちゃんパンを販売しようと計画して、実際販売したら30分で完売しました。そのときのスパンがスタートから4か月くらいかかりました。</p> <p>あの時の子ども達の顔が忘れられないんですね。だから、興味関心があって追及していくことの大事さをそこから学んだので、そんなことを大川でも長いスパンかけて実践してみたいと考えています。</p>
一ノ瀬委員	<p>子ども達が呟きをしたときに、意外とその中に大事なものが入っているんですよ。</p> <p>色々な行事を考えていく中で、誰かが呟いた一言を取り上げて、やはりうまくいったとか皆さんの反響があったとか。そういったことが良くあったので</p>
市長	<p>大事なことだと思います。忙しい中そういった大事な声を拾えなかったりするのです。</p> <p>他の委員の皆さんで意見等ありますか。</p>
谷川委員	<p>大野島の武下農園の方が、毎年大野島小学校の敷地に小さなビニールハウスを作って、そこで、3年生か5年生か、にイチゴの苗植えから水やり肥料やり等いろんな世話をしながらイチゴの栽培を体験させていることを、ここ何年か毎</p>

	<p>年されています。こういう地域で熱心な方を見つけるという事も大事なのかなと思います。</p>
藏本委員	<p>ボランティアの話の中で、養成講座を受けようとする方達を大川市が受講料を補助して、「未来へつながる、人とつながる街大川」に興味のある方を取り込むのも有りだとおもいます。</p>
市長	<p>それは、例えばコミュニティスクールとかで活動していただける人材をゆるやかに養成していくということでしょうか。</p>
藏本委員	<p>そうですね。市全体で子育てに関わっていくという事を表明している訳だから、学校にかかわる事だけじゃなくて、大川市の人はみんなそういう気持ちで取り組んでますよという事を表明する意味でもすごくいい事だと思います。</p> <p>コミュニティスクールのためにとかじゃなくても、自分は関係ないと思っている人もいるけど、みんな当事者なんですよという思いをどうやって持ってもらうか、当事者意識が大事で、チーム大川みんなで助け合っていくんだよというイメージが大事かなと思います。</p>
市長	<p>市民の方々にかなり意識の差はありますね。例えば、地域のお祭りとか行事も減っていつている一番の理由は、保護者などが負担感を持っていて、それがあある時誰かが止めようと言いだして、そちらに意見が流れて行ってしまいう事だと思います。</p> <p>子供会の中で、地域にはいろいろな方がいらっしゃいますので、世代も違うし、以前から住んである方や引っ越してこられた方がいらっしゃるなかで、日常でうまくいかない事の負担感がそういう事につながっていると思うので、谷川委員が言われるように熱心に活動していただく方は、すごくありがたいと思いますけれど、ゆるくみんなで連帯して、やれる事は人それぞれ違うし、熱量も当然違うけれど、やらされている感を大人が思わないようにしていきながら、なかなかうまい方法が見つからないので、試行錯誤しながらやっいていこうと思います。</p> <p>なかなか難しいテーマなので結論が出るというところまではいかないと思いますが、最近のトピックを少し話しますと、先週の日曜日に「福祉健康のつどい」がありまして、小学5年生が素晴らしい作文を発表してくれました。それは、資源ゴミ出しの日に親から自分と弟の二人でゴミ出しに行くように言われて、分別する場面で近所の高齢の女性のゴミ出しをお手伝いするようになった、というものです。私はそれを聞いて感動しました。最初は多分、親に言われて嫌々ゴミ出ししていたと思いますが、その兄弟はそこで自分たちより体力がない人と出会って、自分たちに何が出来るか、一緒にやった方が早くできて、そのお婆ちゃんも楽になるという事に気づいたという事が、なにか自分たちが教えられた気がしました。そして文化センターのステージ上で堂々と話す訳ですから、そういう人前で自分の意見を発表する機会を増やしていく事が大事だと思います。</p> <p>もう一つ、テレビでアメリカの小学校の給食のフードロス状況を児童と先生が問題意識をもって1年間ずっと研究していくわけですけども、そうすると</p>

教育長	<p>自分たちが食べて残った給食がどうなっていくのかを調べて、世界中にはご飯が食べられない人たちがたくさんいる事がわかり、それを市議会議員に相談し、市長に訴えて条例をつくるまで行ったんですけど、フードロス無くすという目標をたてて、それに向かってみんなで動いて、その結果、翌年度からフードロスに対するいろいろな規制がでてくる訳ですけど、子供たちを教育の場だけでなく社会の中でいっしょにやっ変えられることを見せる事で、大人になったときにいろんなことに臆することなくチャレンジしていくんじゃないかなと思ったところです。</p> <p>主体的な学びのためのふるさと教育で、だれにでもふるさとはあると思いますので、主体的に学ぶことで、近所の人を大事にしたり、生まれ育った所に愛着を持ったりという事が出てくるんだろうと思います。そのためには、学校と社会と地域が一緒にやっいけないかなと思います。</p> <p>今日のテーマの「主体的なまなびのためのふるさと教育」について、各教育委員さんからいろんないいアイデアを頂いて、本当の学びとはという事を考えさせられました。最後に言われた事で当事者意識という言葉が出ましたが、これはいわゆるシチズンシップとって、自分も社会の一員なんだという事を子どもも大人もそういう意識を作っいけないといけないなと思いました。</p> <p>先日、大川市明るい選挙推進協議会の研修会があっ、その時の講師の話にそういったシチズンシップを一緒に学ぼうという内容で、とても感銘を受けました。高校生が政治に関わるために、自分たちに何が出来るのかを分かりやすく話をしていただきました。</p> <p>また、先ほど「ゆるやかな」という言葉が出ましたが、谷川委員が言われたコミュニティスクールで、その中の地域学校協働本部というものがまさしくゆるやかなネットワークで、それぞれの得意分野を持っている方々が、ゆるやかにネットワークを組みながら子供たちのため学校のために何が出来るか、また子供たちが地域のために何が出来るかをコーディネートするものです。ありがたい事に、大川市の全部の小中学校でコミュニティスクールが立ち上がりまして、全ての小中学校でその推進委員を委嘱させていただいています。この推進委員の方々がとても魅力的で、やりたい事をたくさんお持ちなので、そういう方が中心になって能力を発揮していただいて、ゆるやかなネットワークを形成しながらいこうと思っています。</p> <p>今日のキーワードとして、「長いスパンで」、それから「教育の中にとどめないで社会の中で一緒に変革を」、という言葉が心に残りました。教育委員さんたちの意見を参考にしながら、令和4年度11月にアウトプットの場を作りたいと思っています。秋田県が毎年の全国学力状況調査でトップですが、ある市の教育長をされた方の資料で「秋田県が学力調査トップの理由とその背景」というのがありまして、ふるさと教育を小中学校の共通実践課題として掲げているということでした。</p> <p>改めて、ふるさと教育を推進していく事を強く思っている訳ですけど、これは必ずや子供たちのためになっていくと思っています。</p> <p>また、無理をせず時間をかけて、一人一人が出来ることをやっいきたいと思っています。</p>
-----	---

市長	コロナ禍で大変ですけれども、子ども達のがびやかにしなやかに育っていくように我々も全力でやっていきたいと思っています。これからも、教育委員会と市長部局は、子ども達に対する思いを共有しながらいっしょに力を尽くしていきたいと思っています。本日は誠にありがとうございました。
----	---